

租税教育推進活動の一環として納税貯蓄組合総連合会並びに関係協力団体が中学生の「税についての作文」を募集し、川崎区・幸区の中学校から多数の作品が寄せられ、川崎南税務署長賞をはじめ各団体賞があり厳正な審査の結果、当川崎南法人会会長賞に川崎市立川中島中学校3年生、菅野光来さん、川崎市立富士見中学校3年生南花衣さん、川崎市立南河原中学校3年生、和田優斗さんの3作品の作文が選ばれましたのでご紹介いたします。



「税の支え」

川崎市立川中島中学校3年

菅野 光来

私は今まで、税というものについて理解していたようで、していませんでした。税について調べていくと知らない事がたくさんあったのです。

まず、税というものは私たちが生活していく上でとても大きな存在であり、無くてはならないものでした。救急車や交番、学校や水道水までといったあって当たり前なものばかりです。もう生活の一部にあって、正直ありがたみがあり分からなくなったりしてしまうものでした。例えば、119番がいつでも無料で呼べるのが当たり前、水道の蛇口をひねればきれいで安全な水が出るのは自然現象だと、あまり税について深く考えていなかった自分はそう思っていました。しかし、実際そう感じている人は少なくないと思います。私が生まれてきた時からそれがあり、定着しているから

です。でも、それらのあって当たり前の状態は、昔から今までの日本のために働いている人たちの日常的な地道な業務あってこそだと身にしみて理解できました。

また、さらに調べていく上で、たくさん使い道がある中また別の使われ方もあると分かりました。それは自然災害への援助です。東日本大震災が起こった事により、復興の手立てとしてつくられたそうです。日本は自然災害が多い事ではもちろん有名で、そんな状況の中、復興のための税がつけられたのは、とても良い事であると思います。具体的なものとしては、仮設住宅や堤防などがつくられたりと、広い範囲にわたって使われているそうでした。私の祖父母も実際に震災にあっていて、その援助が税金を通して届いているのだと思うと、より税の大切さが分かります。

私は今回改めて税について調べてみて、税金の仕組みというのは国民同士が助け合い、支え合って生きていく形そのものだと思いました。普段自分が安心して豊かな

暮らしを送れているのも、たくさんの人達の支えがあるからという事を忘れないでいきたいです。そして今、私たち中学生ができる事は、より勉学に励んでいく事だと思っています。もちろん今、こうして教育が受けられるのも支えのおかげだと思うからです。感謝の気持ちを忘れずもっと学んでいき、そしていつか、国を担う私たちが恩返しすることができれば良いと思います。



「税で支えあう暮らし」

川崎市立富士見中学校3年

南 花衣

私は税と聞くと、大宝律令の時の租、調、庸や江戸時代の年貢、現在のものという消費税を思いつきます。前の二つは昔の税ですが、共通点としてどちらも納めることがとても大変だったということがあると思います。それらと比べると、消費税は代金の支払いをするだけで納められるとても身近に感じる税です。私は、昔の税は教科書などで学習したのでどのような使われ方をしたのか知りたいと思っていますが、消費税は「薄く負担を求める税」と言われているように、何も考えずに払っていることが多いです。そのため、公立の学校の教科書や公共施設の整備福祉などに税金が使われていることは知っていますが、具体的なことや自分の住んでいる街での使い道をよく知りません。私は税の使い道に興味を持ったので、街ごとの

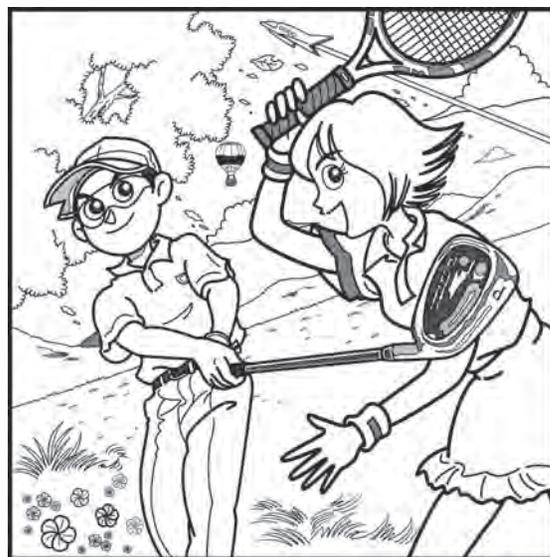
税金の使い道を調べたところ、私の街では、半分近くの割合が健康・福祉に使われているそうです。健康・福祉の具体的な税の活用方法は、医療の一部負担、点字ブロックやスロープなどのバリアフリーの整備などがあるそうです。私は、税金がバリアフリーの整備に使われていると知り、中学一年と二年の時に行った、福祉体験教室を思い出しました。福祉体験教室は、体が不自由な方のお話を聞いたり、実際に福祉に関することを体験したりする教室です。私が参加したときは、二回とも目の不自由な方が来て下さりました。その中で、点字ブロックのない所では、記憶を頼りに家まで帰るということを聞きました。また、その後には目を塞いだ状態で外を歩く体験をしました。この体験をすると、目の不自由な人の大変さや周りが見えないことの危険性が感じられます。この教室の後、私はいつも何気なく見ているバリアフリーの大切さが分かりました。この経験から、税金を使ってバリア

フリーを増やすことは、体の不自由な人も生活しやすい街、つまり誰もが生活のしやすい街を作っていくことだと私は思いました。また、税金を使って行われていることは、必ず誰かの役に立っていると感じました。

更に、医療の一部負担は税金が無くなってしまつと、とても高くなってしまつので、どんな人でも医療にかかることができるようにすることは、税金の大切な役割だと思えました。

このように、税金はなにげなく払うことが多いけれど、多くの人のより良い生活を支えていると思います。税金は多くの人の助けとなつています。消費税も払う時は「薄く負担を求める税」です。しかし、多くの消費税が集まると、できることは増えていくと思います。そのためにも、一人一人がきちんと税を納めることは、大切です。

7つの間違い探し



【作者紹介】

神谷一郎（かみや・いちろう） イラストレーター、デジタルイメージ会員、日本出版美術家連盟会員など。専修大法学部卒後、漫画プロダクションを経て漫画家に。現在はフリーランスのイラスト

「税の恩返し」

川崎市立南河原中学校3年

和田 優斗

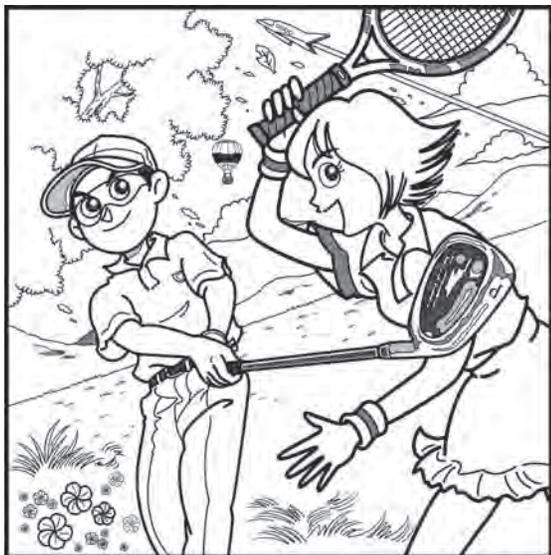
「払わざるを得ない」——。「税」という単語を目にする度に、そんな言葉が脳裏を過ぎる。税金が社会にとって必要なシステムだということは理解しようとしているものの、これといって実感が沸かない。あまりにも漠然とし過ぎていたのだ。今回税の作文を書くにあたって、税金とはどのようなものなのか、私はパソコンの検索ワードに「税金」とキーワードを入れた。私が住む川崎市の税金に関するページが、検索結果に上がった。「『どこよりも子育てしやすいまち』を目指す」そう銘打たれた川崎市の計画の一つに、私にとって馴染み深い項目があった。「中学校完全給食の導入に向けた取組み」だ。

川崎市では今年度9月から中学校給食が開始される。そういえば以前、それに関する資料を見た際、一つ疑問に感じたことがあった。一月あたり約四千円で給食が提供されるというのだ。一月二十日間で換算すれば一日二百円にも満たない。市では今年度、二十億七百万円の税金が中学校給食に投入される。そう、不足分は税金で賄われていたのだ。税金が活用されているのは給食だけに留まらない。学校、いや、私達の生活の基盤は税金によって支えられている。家の本棚に目を向けると、小学校一年から中学校三年の九年間分、使いこまれた教科書がずらっと並び、教科書の裏には「この教科書はこれからの日本を担う皆さんへの期待を込め、税金によって無償で支給されています。」と記載がある。これも税金で支給されているのか。公立中学校に通う生徒一人につき、約百万円近い費用が税金から捻出されているという。「取られる」と思っていた税金は、こうした所ですっかりと還元されていた。

「税金」という言葉はどうしてもマイナスイメージを持たれがちだ。だが、私達国民が税金によって様々な恩恵を受けていることを忘れてはならない。先日、川崎駅に北改札が出来て大変便利になったのだが、それも税金による補助金を受けて作られたものだ。「より豊かな街を作る」その為に不可欠な仕組み、それが税金なのだ。

私は来る三月に義務教育の過程を終了し、やがては社会に出て働く立場へと変わる。では、これまで税金の恩恵を受けてきた私達が、今後社会に寄与する為には何をすれば良いのだろうか。税金は「相互扶助」の精神に基づいて成り立っていると私は考える。国民で負担を分割することで、皆に優しい社会が築かれる。となれば恩恵を受けた分、しっかりと納税の義務を果たすべきだ。つまり、今私達に出来ることは、懸命に勉強に励むと伴に税の制度に関心を持ち、社会の一員として将来しっかりと税金を納めることである。この「恩返し」が、より良い社会を作ることを願って。

* 右の絵と左の絵には相違点が7か所あります。見つけられますか？(答えは7頁にあります)



レーターとして、雑誌・広告・WEB等で活躍中。第35回集英社YJ新人賞、第51回講談社漫画賞などを受賞。第4回デジタルアートコンテスト佳作。著作に「マニアックサイバー」(グラフィック社刊)。